

【生薬名】芍薬（白芍）*PAEONIAE RADIX*

【起源植物】シャクヤク *Paeonia lactiflora*



芍薬 白芍Ⓔと赤芍Ⓕ

【科名】ポタン科 *Paeoniaceae*

【別名】大和芍薬、大瀉芍薬

【薬用部分】根

【主成分】ペオニフロリン、タンニン

【薬性】気味は酸苦微寒、帰経は肝に属す

【効能】●補血・緩急止痛

●生理不順、腹痛、腰痛、下痢、胃痙攣などに3～6gを煎服

●婦人薬の当帰芍薬散に配合されている

●肝脾不和・肝胃不和など肝気鬱結による腹痛に用いる。

●血虚による四肢の筋肉痙攣にもちいる、特に腓腹筋痙攣に対する鎮痙・鎮痛作用がある。芍薬甘草湯は様々な疼痛疾患に有効

●古人は「養肝陰の主薬である」として、眩暈、耳鳴、眼霞む、肢体の痺れ、筋肉の痙攣など肝陰虚の症状に広く使用している

【出典】●味苦平。治邪氣腹痛。除血痺。破堅積寒熱疝瘕。止痛。利小便。益氣。(神農本草經中品)

●白芍薬 酸寒、能く収め、能く補い、瀉痢腹疼、虚寒には与うる勿れ、下痢には炒りて用い、後重には生を用う。(薬性歌)

●結実して拘攣するを主治し傍ら腹痛、頭痛、身体不仁、疼痛、腹満、咳逆、下痢、腫臙を治す。(薬徴)

【備考】●生薬用のシャクヤクは花を咲かせずに摘みとる処置をする

●*lactiflora*というから白花を薬用とする

●中国では白芍薬、赤芍薬と使い分けているが日本ではあまり使い分けはせずほとんど白芍薬を使っている。赤芍薬は駆於血作用がより強いとされる

【処方例】●芍薬甘草湯、桂枝加芍薬湯、小建中湯、四逆散